



## ■小野アルプス(前回登れなかった紅山へ)

- 山 行 日：9月11日(日)
- 参 加 者：La 須増 SL 野村 黒本 高島 清水 田中(重) 田中(由) 舛賀  
松浦 矢根 山本(正一)  
Lb 瀧原 SLb 藤本 内海 岡本 乙坂 狩集 小山 島谷 田中(美)  
谷口 土井 西川 西口 橋本(万) 山本(清)

- 行 動 記 録：

車利用(鴨池公園駐車場を起点)と②電車利用(小野町駅を起点)の二つのパーティーに分けて、途中(岩倉入口)で合流する計画

### [鴨池公園駐車場車を起点の行動記録]

鴨池公園駐車場 9:00 発～鴨池～バス乗場(9:05 着)～女池東堤(9:10 着)～岩倉入口(9:15 着) 9:35 発～道標(9:40 着)～分岐A=右:紅山(9:42 着)～分岐B=左:小野アルプス(9:44 着)～分岐C=左:惣山(9:46 着)～岩倉峠(9:50 着)～紅山(10:00 着)～10:30 発～車道(10:40 着)～分岐B=左:小野アルプス(10:43 着)～惣山=小野富士(11:25 着)～11:27 発～アンテナ山(11:37 着)～11:43 発～総山(12:00 着)～アザメ峠(12:15 着)～峠の地蔵(12:16 着)～12:46 発～コミセンきすみの(13:31 着)～鴨池公園駐車場(14:11 着)

### [小野町駅を起点の行動記録] 上記の「岩倉入口」で合流し、以降の行動記録は同じ

JR加古川線/小野町駅(8:38 着)～8:50 発～岩倉入口(9:30 着)～鴨池公園駐車場(14:11 着)

## ◆◆小野アルプスを登って

## 西川

小野アルプスは山陽自動車道の北側で加古川市と小野市の境にあり最高峰の惣山でも198.9mのミニアルプスで「中コース」、「東コース」、「西コース」とそれぞれ趣の違ったコースが手軽に楽しめる人気がある。

当日集合時間の30分前に鴨池公園駐車場に着くとすでに多くのメンバーが集まっていて、聞くと集合場所がわからないので早目に自宅を出たらしく、意外と初めての人が多いのかもしれない。

ストレッチの後、早目に出発、岩倉入口で電車組と合流、本日のメインイベント紅山を目指して総勢26名、2班に分かれて出発した。木陰の道を20分程歩いて紅山の下に到着、オレンジ色の苔がついた岩場は、まるで恐竜が背中を向けたような姿で我々を待ち受けていた。最初は緩やかで二足歩行で登れたが、中ほどからは四つん這いで登った。途中、前が詰まり余計恐怖心はわくが足場はしっかりしているので大丈夫と、自分に言い聞かせ

ながらやっとの思いで頂上へ。岩場の距離以上の充実感を味わうことが出来た20分間であった。

頂上からは市内が一望、真下に山陽自動車道、権現湖、その奥に飯盛山、少し離れて高御位山が我々を迎えてくれた。休憩の後、小野市の最高峰「惣山（小野富士）」へ。展望台からは、先ほど登った紅山や、これから向かうアンテナ山、遠くに淡路島を望むことが出来た。その後、総山、アンテナ山を通過するアザメ峠へ、ここで昼食。暑さにへばった体に木陰の風が心地よい。食事の後、白雲谷温泉ゆびか方面へ。一山越えたところを左折、あさぎり山道を下り里山へ出る。



田の稲穂は黄金色に実り、赤とんぼが飛び交い、彼岸花が咲き里には早秋の気配がする。

「コミュニティセンターきすみの」で、トイレ休憩の後14時10分駐車場に無事到着。

今回は近場でお手軽ではあるが紅山のスリリングな岩場もあり楽しい時間を過ごすことが出来た。

最後に計画して頂きました須増リーダーを初め関係者の皆様大変お世話になり有難うございました。

#### ∴ 追伸

岩倉入口近くにあった古い道標の文字の件ですが、右、小の町、一ば、下きし(小野町、市場、下来住)、左、やしろ、たきの、あを(社、滝野、栗生)と、書いてあるそうです。

参考までに。



## ■栗駒山&安達太良山(ゆっくりリズム山行) “東北の紅葉と温泉を楽しむ”

- 山行日：9月24日(土)～27日(火)
- 参加者：La 渡邊(俊) SLa 荘所 金島 河合 田中(由) 田羅間(易) 舛賀 山本(清)  
Lb 澤田(律) SLb 待場 澤田(卓) 田中(重) 田羅間(勤) 西口 開 村上

#### ● 行動記録：

- (24日) 姫路7:54発—東京(11:40着)12:36発—一ノ関(15:13着)15:30発—瑞泉閣(16:00着・泊)
- (25日) 瑞泉閣7:30発—登山口(8:20着)8:30発—名残ヶ原(9:10着)9:20発—天狗平(11:15着)11:20発—栗駒山山頂(11:45着)12:10発—産沼分岐(12:55着)13:05発—苔花台(14:03着)14:08発—登山口(14:40着)15:00発—一ノ関駅(16:10着)16:48発—二本松(18:16着)18:25発—宝龍荘(18:55着・泊)
- (26日) 宝龍荘8:30発—山麓駅(8:40着)8:45発—山頂駅(8:55着)9:15発—表登山道分岐(10:00着)10:10発—安達太良山山頂(11:45着)12:30発—分岐牛の背(12:45着)12:50発—峰の辻(13:10着)～くろがね小屋(14:15着・泊)

(27日) くろがね小屋 6:45 発～荒龍岩(7:55 着)～八幡の滝分岐(8:45 着)8:50 発～馬返し(10:30 着)～塩沢登山口(10:40 着)10:55 発～青木荘(11:50 着・風呂・昼食)13:02 発～二本松駅(13:20 着)13:53 発～東京駅(17:33 着)～姫路駅(21:27 着)

## ◆◆ゆっくりズムで東北へ

山本(清)

### 【1日目】岩手一関温泉

“思えば遠くへ来たもんだ・・・”初めてのゆっくりズム山行は山陽・東海道・東北新幹線～東北本線を乗り継いでおよそ7時間。車内での楽しい会話や時折眺める風景であっという間でした。

行ってみたかった東北に居るんだな～ってワクワクしました。

楽しみの1つは温泉です。ここは美人の湯と呼ばれているようで、乳白色の天然の温泉でほっこり、ゆったりできて美人になったような気分になりました。

夕食は沢山のごちそうが並び美味しく頂きましたが、中でも「ひとめぼれ」のご飯はピカピカしていて新米の香りがして最高のごちそうでした。翌日のお昼用に大きなおにぎりを2個作って頂きましたが、残念ながら1個しかお腹に入りませんでした。

### 【2日目】紅葉を求めて栗駒山へ

登山道脇には、あちらこちらから湧き出した温泉が流れていて硫黄の臭いが漂っていました。手をつけてみると熱い位でした。

木道や整備された道を1時間ほど歩くとチラホラと秋の装いが見え始め、感動の声が聞こえてきました。紅葉シーズンの休日とあって登山者が多く、道譲りでたびたび歩行は中断しましたが、汗はポタポタと落ちてきました。

頂上に近づくにつれて視界が開け、ナナカマド、カエデ、ドウダンツツジなどの赤・黄色と、未だ枯れ落ちていないススキ、ハイマツの緑も加わって見事な風景になっていました。

思わず「錦おり～な～す～♪」の歌が頭に浮かんできました。さてどんな風景を歌った歌だったかしらと家に帰って調べてみたら、滝廉太郎の「花」という歌でした。これは春を歌った歌だと分かり、ひとり苦笑してしまいました。



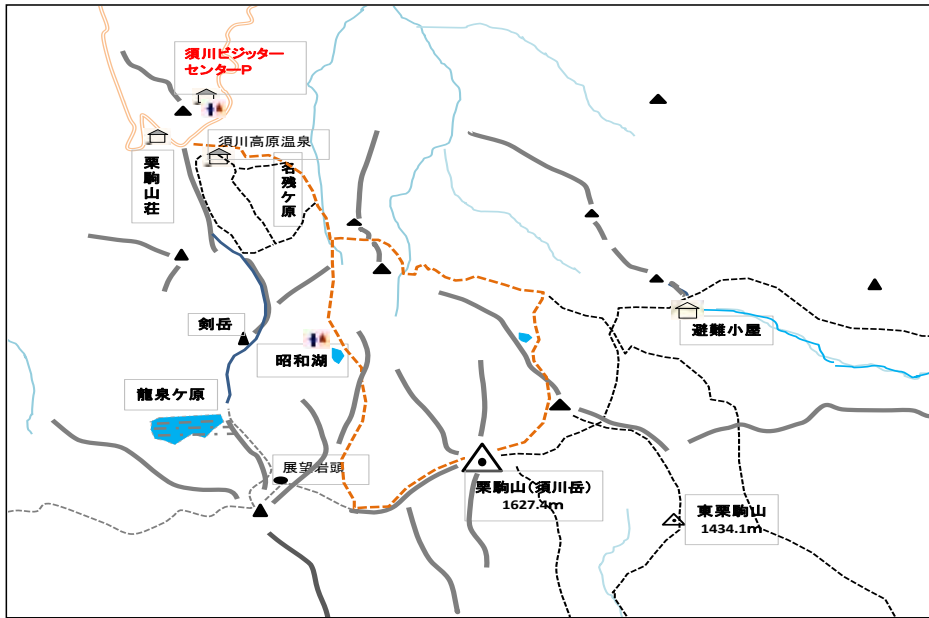
1626mの山頂からは、360°の大パノラマが広がりました。

昼食後、周回コースを下山しました。道は狭い上に背丈を超える木々に覆われて視界は悪かったですが、時折立ち止まって紅葉した山を眺めることができました。それも程なくすると、岩がゴロゴロした滑りやすい道になり、先ほどの素晴らしい紅葉に出会えた感動はしだいに遠のいていきました。予想外の厳しい道で背筋が伸びたような感じがしました。

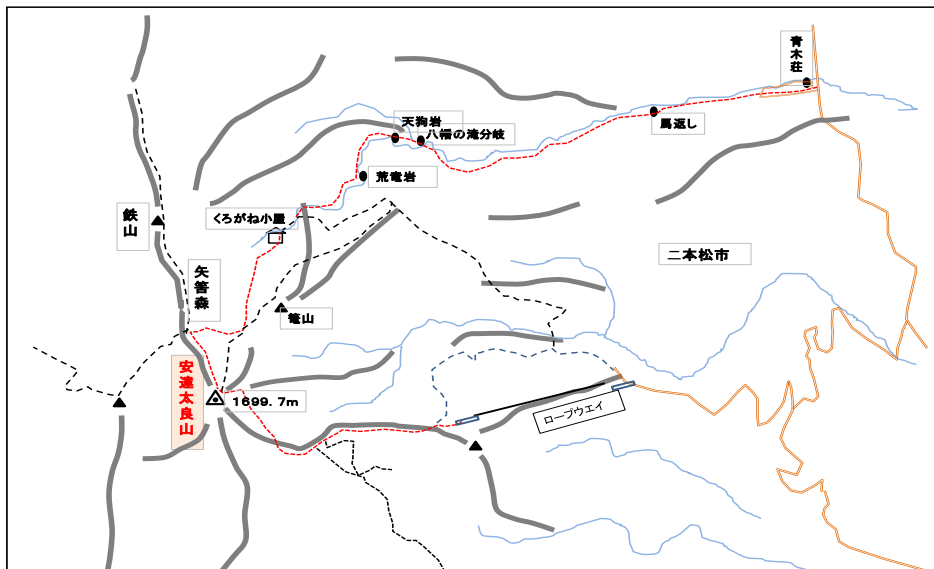
登山口の手前で登りの道と合流するころ、また紅葉を見られる辺りにさしかかると、下山道での苦しさは薄れていきました。

初めてのゆっくりズム山行に先輩の皆様とご一緒でき、はるか遠くの山行に参加できたことに感謝した一日でした。翌日の安達太良山を楽しみに2日目を無事終えました。

### 【栗駒山概念図】



### 【安達太良山概念図】



## ◆◆ゆっくりリズム・栗駒山、安達太良山に参加して 田中(重)

### 【3日目】

昨日の栗駒山の鮮やかな紅葉が冷めやらぬまま、今日から後編・安達太良山山行。

岳温泉・宝龍荘の建具、調度品など由緒ある宿を出て見上げる空は小粒の雨だが好転を願いながらジャンボタクシーで山麓駅へ。奥岳登山口のゴンドラで山上駅へ・・・。ストレッチをする頃には薄曇りになり、渡邊Lから「今日はくらがね小屋までで十分時間があるのでゆっくりリズムそのまま歩きましょう」の言葉でA班、B班の順で安達太良山目指して出発。

安達太良山といえば高村光太郎の智恵子抄、深田久弥の百名山、田中澄江の花の百名山等で知られた山で紅葉には少し早いのが楽しみにしていた。

樹林帯を30分程で抜けるとテレビの映像で見た安達太良山の特徴〈乳首〉ある山容が



飛び込んできた。そこで一息、水分補給やら記念撮影やら面々笑顔で賑やかな休息でした。

その辺りから少し歩を進めると岩場続きになり足元に注意をしながらも、ところどころの紅葉や、わずかな花に癒され山頂近くに……。火山岩の山頂をバックに全員の集合写真を撮りザックを置いて火山岩特有のゴツゴツした岩場を慎重に安達太良山山頂へ。360度のパノラマで北には安達太良山山系の最高峰・箕輪山(1718.4m)を望むことが出来ました。山頂では登山者も無く我々の独断場で思い思いの記念撮影で賑やかでした。

頂上直下の広々したザレ場で昼食タイム中、ゆっくりする間もなく雨が降り出し、そそくさと片づけカッパを着て、くろがね小屋へ向け稜線伝いに行くと沼ノ平に向かうコースに「目玉おやじ」のような標が殺風景な岩とザレ場に目立っていた。火口周辺では火山ガスの噴出が続いていて硫黄の匂いがする、火山泥流の幻想的光景が広がる。そこからは直角に進路を変え小雨の中、ザレ場を足元に気をつけながら下ること1時間強でくろがね小屋に無事到着。源泉かけ流しの温泉でサッパリし、夕食は秘伝レシピの名物カレー……。

しかもお替り自由で贅沢な山小屋での一夜でした。

#### 【4日目】

昨日からの雨は真夜中まで本降りでしたが、早朝には止み朝食頃には青空が広がりメンバーも心晴れやかな気持ちに包まれながら1時間早めて7時前には山小屋を後にした。

暫くして振り返ると「くろがね小屋」が絵に描いたような山岳風景に溶け込んで見えていました。昨夜のミーティングで数カ所の沢渡りがあると聞いていた。最初の五の橋に増水の沢に架けられた丸太を慎重に渡り、その後も沢伝いや岩伝いの下りで、山形に組み込まれた3本の丸太橋にはロープも無く、先頭のLb澤田さんの股ずりで渡たるスリリングなところもあり慎重に後に続いた。やがて樹木の隙間から見える天狗岩を過ぎ八幡滝の壮観な滝に感動でした。屏風岩を過ぎ馬返し辺りまでは山土の泥濘で私を含めて何人か足を取られ尻もち！緊張状態の連続で疲れた膝、足首に負担がかかる。馬返しから塩沢登山口に予定時間に全員無事に下山する事が出来、温泉で汗も流しサッパリして新幹線のはしごで帰路に……。



渡邊La、澤田Lb、荘所SLa、待場SLb、メンバーの皆さま、初参加の何も解らぬ私達でしたが大変お世話になり有難うございました。

最後になりましたが、渡邊Lには企画から山行終了まで、細やかな気配りを頂き本当にありがとうございました。



### ■妙見山(1139m) “歴史と自然を楽しむ” (妙見山登山シリーズ第2弾)

- 山行日：9月25日(日)
- 参加者：L垣内 SL藤本 内海 有本 香川 狩集 木村 清水 田中(美)  
藤田 森下 山下(雅)
- 行動記録：妙見キャンプ場9:20発～妙見山山頂(10:35着)10:45発～妙見峠(11:25着・昼食)  
11:45発～名草神社(12:15着)12:40発～妙見キャンプ場(13:10着)

## ◆◆但馬妙見山山行に参加して

木村

当日は加西市役所に集合し3台の車に分乗し妙見キャンプ場を目指しました。着いた駐車場には色づいたナナカマドの実が出迎えてくれました。ストレッチをすませ、キャンプ場管理棟跡を過ぎ林道に入りました。よく手入れされた杉の木々の間を登る。登山道も所々に丸太階段が整備されていてとても歩きやすい。こんなにきれいに手入れされた山に登るのは初めてです。途中の展望がなかったのは残念！

山頂には古い木柱と方位盤がありましたが1139mの本当の山頂はどこかわかりませんでした。休憩の後、妙見峠に向かいました。途中登山道と並行して林道がありびっくり！山の手入れに使われているのですね。



妙見峠で昼食をとり名草神社に向かいました。ここは出雲大社に妙見杉を提供したお礼として出雲大社から移築された三重塔がありました。塔には猿の彫刻があるときいてみんなで見上げて探していると・・・一層目の四隅には塔を支える力士が、二層目も違う、三層目にありました。「見ざる、言わざる、聞かざる、そして思わざる」の四猿の彫刻が。

「見ざる、言わざる、聞かざる」はよく耳にしますが「思わざる」は初めて知りました。名草神社からは広い林道を下山しました。今回は登山のおまけに興味深い文化財を観る事が出来、楽しい山行になりました。リーダーさん、ドライバーさん、お世話になり有難うございました。



## ■三草山(423m・加東市 ゆっくりリズム山行) 源平合戦の話が伝わる歴史ある山

- 山 行 日：10月6日(木)
- 参 加 者：La 澤田(律) SLa 藤原 内海 河合 清水 狩集 坂田 関山 増田 田中(美) 田羅間(勤) 渡邊(俊)  
Lb 瀧原 SLb 藤本 田中(重) 田中(由) 土屋 苦瓜 開 藤田 村上 矢根 山本(清)

- 行 動 記 録：三草山駐車場 9:25 発～277m(10:15 着)10:45 発～三草山山頂(11:10 着)  
12:05 発～古道コース分岐 12:10～昭和池 13:00～三草山駐車場(13:20 着)  
13:45 発～朝光寺(14:05 着)14:25 発～東条温泉(14:50 着)入浴後解散

## ◆◆天高く馬肥ゆる秋の頃に

土屋

「天高く馬肥ゆる秋、澄み渡る青い空、泳ぐ白雲木陰涼しい登山道かな」台風一過の秋晴れの朝、気持ち良く家を出発した。三草山登山口に現地集合し駐車場でストレッチ体操した後、A班B班に別れて三草コースから登り、下りは三草古道コースを歩いた。

途中休憩したところにベンチがあり一休み。眼下に稲がたわわに実った黄金色の田が広がっていた。後ろを見上げると今から目指す目印に山頂の大木、何度かアップ、ダウンし急な岩場に鎖がありガレ場もあったが整備された登りやすい山道だった。

頂上からの展望は明石大橋が見え360度素晴らしい。昼食後、下り坂は直滑降の感じで昭和池の傍を通りながら無事下山する。

次に向かった朝光寺は参道横につくばねの滝があった。江戸時代の立派な山門をくぐり本堂に向かう。鐘楼と共に国宝の厳かな雰囲気歴史を感じた。

東条温泉に浸かるとほっと一息、汗を流してスッキリ帰路についた。

台風の進路にやきもきしながらの山行日でしたが、素晴らしい山行に感謝です。リーダーさん会計さんDrさん皆さんに感謝。有難うございました。



## ■ 恵那山(2191m) 中央アルプス最南端 日本100名山に登る

- 山行日：10月9日(日)～10(月・祝)
- 参加者：L尾内 SL尾越 赤木 上田 藤本

### ● 行動記録：

- (9日) 萬岳荘 13:45～富士見台(14:15着)14:25発～萬岳荘 14:55
- (10日) 萬岳荘 5:10 発～神坂峠 5:20～鳥越峠 6:15～大判山(7:10着)7:15 発～天狗ナギ上(8:05着)8:15 発～宮前コース分岐(9:40着)～山頂避難小屋 10:10～山頂往復・昼食～山頂避難小屋 11:30 発～野熊ノ池避難小屋(13:35着)13:45 発～黒井沢登山口(15:00着)

### ◆◆ 藤村があけくれ眺め、ウェストンも登った恵那山に登る

上田

山荘前にタクシーが着いたのは13時、富士見台までゆっくり歩いて往復一時間、ガスって何も見えそうにないが行ってみる。

萬岳荘は阿智村営の野外学習施設、食材を持込めば什器備品、それに寝具がすべてそろっている。今日の夕食は本格すき焼き、ビール・酒・ワインあり、締めはうどん。腹いっぱい食べた後は、管理人さんの案内で「日本一の星空」を見る。

まだ明けきらぬ5時10分萬岳荘出発、神坂峠コースから恵那山をめざす。このコース





の標高差は600m程だがアップダウンが大きく距離は長い。それにウバナギ・天狗ナギ



(ナギは崩壊地のこと)などの危険カ所もある。山頂台地との中間の相伴山に7時10分、台地西端の前宮コースとの分岐に9時40分に着く。

ガスがかかるのとほとんどが樹林の中なので展望は良くないが、ガスが切れた一瞬には長大な南アルプスの稜線や御嶽山や乗鞍岳が見える。山肌には赤や黄色が入り秋山の気分を味わうことができる。

最後の急登をしのいだ分岐からは山頂台地上の平坦な道になり10時10分山頂避難小屋に着く。避難小屋前は神坂峠・前宮・黒井沢・広河原各コースから登ってきた登山者でにぎわっている。ザックを置いて、三角点のある山頂往復やおにぎりのみそ汁の昼食で1時間ほどをゆっくりと過ごす。

11時半山頂をはなれて黒井沢コースを下山する。下りはじめてから1時間余りはほとんど高度が下がらない水平道だが岩と木の根で歩きにくい。林床が笹でおおわれたカラマツの林は美しく気持ちはいいが足元から目は離せない。2時間くだってようやく野熊ノ池避難小屋に着き休憩。道はなかなかゆるやかにならない、それにタクシーを予約している15時が迫ってくるので急がなくてはならない。最後は林道を必死に歩いて、私流に2捨3入で記録すれば15時ちょうどに黒井沢登山口に着いた。

山行日を1日ずらしたおかげで雨にあわず幸いだった。22時頃、ちょうど10年ぶりで2度目の恵那山山行から無事帰宅、同行の4人に感謝、いい山行が出来ました。